

人生の最終段階の医療についての課題①

9

人生の最終段階の医療については繰り返される話し合いが重要
「末期がん」や「老衰時の胃ろう問題」などがピックアップされやすいが
実際は「生活」の延長の中で語られるべき（誰にでも関係する話題として）

課題①

病院から始まる話題ではないはずだが、病気・病院を軸にのみ語られている。
かかりつけ医の外来ではほぼ話題にされていない(と思われる)
(定期通院しているが今後のことを話し合えていない)

オレンジの取り組み



“みんなの保健室”にて
生活・地域の場で話題を提供



“つながるクリニック”では
普段の外来で予防やACPに力を入れている
(写真は待ち合いスペースで患者とスタッフが談笑している)

人生の最終段階の医療についての課題②

10

人生の最終段階の過ごし方について話し合う上で
重要な選択肢となるはずの在宅医療・在宅療養について国民が知らない

課題②

在宅医療を含めた“生活の中で病気と付き合っていく方法”について
十分に情報提供がなされていない

→国民への情報提供(在宅医療などの資源やその選択の重要性など)が必要

オレンジの取り組み



在宅医療や地域包括ケアの中での
市民の役割について劇を用いた
市民公開講座を開催



地域の商店街関係者も巻き込んで
地域ケアを考える
ワークショップなどを開催

人生の最終段階の医療についての課題③

11

人生の最終段階についての話し合い＝「どう生きていくか」の話し合い
暗い話題にせず、前向きに話しあう必要がある

課題③

ネガティブに「病」「老」「死」を話題にするため暗い話題になりやすい
→本来は最期まで生き活きと過ごすための話し合い

オレンジの取り組み

生まれつきの重度障害や難病患者にとっては
人生の最終段階についての話し合いを一生継続すること
になる

“オレンジキッズケアラボ”では子どもたちの未来と家族・
地域との繋がりにスポットを当てて前向きな話し合いを
継続している。

→医療ケアが必要な重症児を育てながら仕事に復帰して
いるお母さんが70%以上



人生の最終段階の医療についての課題④

12

医療が関わるような意思決定に限ったとしても
病院で行われる意思決定はあくまで一時的なものであり
生活の中で繰り返されるべき（特に在宅医療の現場にて）

課題④

生活の中で繰り返し相談される仕組みが不足している

→在宅医療チームにMSWが常駐するなどの対応が必要

→相談員研修は医療者だけでなく福祉関係者などにも受講してほしい
（民生委員や喫茶店主など一般人にも拡がるとなお良い）

オレンジの取り組み



看護師・社会福祉士だけでなく介護福祉士、事務スタッフ、診療クラークも「人生の最終段階
における医療にかかる相談員研修」を受講し、日々の関わり全てに相談を意識している。
クリニックには4名の社会福祉士が常勤

発病前の地域のアプローチと地域と病院のACP双方向共有と 13
 生活維持のための在宅医療で必要な医療は生活を軸に整理される

